

第12回災害対策本部会議議事録

日時：平成23年3月20日（日）10:00～10:25

- 危機管理監：昨日夕方の震度5強の地震の被害について、けが人1名（小美玉市の74歳女性、家具が上から落ちてきたことにより搬送）。道路では、ひたちなか市で亀裂が拡大、下妻市・那珂市では陥没が数箇所発生。住宅の関係では、水戸市で半壊住宅が全壊した。
住民避難の数は減ってきているが、福島県からの避難者が1,707名で、昨日から260名増加している。今後も増加傾向にある。ライフラインの関係は、電気は潮来市で全て送電を完了。上水道は、大洗で一部給水されたので、全域断水は神栖市、潮来市の2市。断水戸数は、昨日の22.8万戸が18万戸に減ってきている。
- 土木部長：常磐道と東水戸道路は、今朝6時までに4車線の復旧工事が完了し、今日9時から安全確認を実施。安全確認がとれ次第、常磐道で緊急交通路指定がとれ次第通行止めが解除となる。直轄国道の51号は、大洗のところが、23日に2車線で暫定供用予定。県管理道路の通行止めは51箇所。震災後、橋梁の点検を開始した。ここに書いてある橋梁以外にも、余震で、被災を受けているところがある。例えば、国田大橋で下部工に亀裂が見つかっている。橋梁以外にも、2,3メートルの落石が何箇所かあるが、余震の関係でまだ点検に入れていないところがある。県の有料道路は、常磐道の通行止めが解除されれば、日立有料と常陸那珂有料道路が通行できるようになる予定。
港湾では、航路の水深の確認が進んでいる。今日、日立港区について、緊急輸送対応で一部の岸壁が供用開始する予定。
- 生活環境部次長：福島県からの避難者の受入状況について、県南、県西地域の避難所をメインに紹介している。ほとんど、いわき市からの市民の問い合わせに対応している。市町村でも、新たに、水戸市、笠間市、太子町、結城市などにおいて自主避難した方を受け入れている。昨日、取手市で、南相馬市との災害協定に基づき、市の3施設で147名を受け入れたと聞いている。その他、自主避難の方を、取手一高で30名受け入れている。
県の関係では、洞峰公園、国際会議場、霞ヶ浦総合運動公園はキャパシティに達している。現在、猿島少年自然の家、あるいは牛久市総合福祉センターをメインに案内している。放射能相談を原電の方をお願いしているが、ほとんど相談がなされていない状況。
- 山口副知事：昨日、検査者が135名あり、これまで2,632名いたが、オーバーはいない。
- 農林水産部長：昨日、県内農産物の安全確認の分析を行った結果、ハウレンソウの6検体で基準値を超える結果が出たので、公表するとともにハウレン草の出荷販売の自粛を要請した。その内容については、毎日15g程度摂取を続けたとしても、1年間でCTスキャンの5分の1程度で健康に害を及ぼすものではない。今後とも冷静な対応を求めていく。今後、他の品目についても検査を行い、安全性を検証し、風評被害を抑制するような形で対応していきたい。
- 原子力安全対策課：北茨城市、高萩市とも安定した状態で、1マイクロシーベルト/時以下を保っている。

- 山口副知事：昨日の発表を受けて、相談体制を整え、保健所と生活衛生課で受け付けている。昨日は、保健所で 13 件、本課で 18 件の計 31 件の相談を受け付けたところ。本日も全保健所と生活衛生課で、夜 8 時まで受け付けている。
- 知事：何の相談が多かったか。
- 生活衛生課長：詳細、整理されていないが、ほとんどが食べて大丈夫かという問い合わせ。
- 生活環境部長：各所属で夜間の要員として、2, 3 名程度お願いしているが、全体的に見て少し落ち着きが見られるので、連絡要員という形であれば、各部長さんの判断で縮小することをお願いしたい。
- 上月副知事：つくばの官舎の整備の関係は、国の方に早速住宅課から要望し、国で早急に対応していきたいということを知っている。官邸にも避難者の対策本部が立ち上がるということで、22 日に 1 回目の会合が開かれると知っている。県をまたぐ大きな避難となるので、その辺の枠組みから議論されるだろう。

4 月になると学校の問題もでてくる可能性がある。病気等以外の避難者のニーズに、我々の方でどう対応してくのか、頭の体操をしておいたほうがよい。避難者の窓口の方でよく聞いて、少しずつやり始めた方がいいのかなと思っている。

ガソリンは、昨日、鹿島石油で普通の状況で出してもらっている。精製はしていないので、1 週間もつかどうか。今日も、昨日と同じに出していくと知っている。ただ、ローリーが、道の状況も悪くて、1 日に 3 往復できるところが 2 往復しかできない状況もあると知っている。
- 対策班長：市町村への救援物資の関係は、県の持っている食料、水について自衛隊の協力を得ながら配送している。県北については終了。鹿行は今日やっていただける。その他についても、自衛隊に配送をお願いしているところ。
- 教育長：放射線の関係は、先生方に資料を配ったが、食べ物のことで心配しているようだ。できればこれと同じように、ホウレン草とか食べ物の部分で健康に影響がないことがわかるような資料をいただければ、学校に配布して保護者対応をやっていたらと思う。
- 農林水産部長：原子力安全対策課とも相談して対応したい。
- 東京電力：県内の農産物に影響がでて申し訳ない。福島第一原子力発電所の今後の作業について補足説明。今、注水を 4 号機に実施。昨日の 3 号機の段階で構内の放射線量は 1 割から 2 割程度低くなくなっている。逆送電の準備が整い、仮設の変圧器から 2 号機に優先的に復電させようとしている。しかし、2 号機を受電設備が水没し使えないため、ケーブルの繋ぎ込みをしているのだろうと思う。2 号機が復電されれば、計測制御系を生かして、炉の中がどうなっているのか、非常用の炉心注水系がどうなっているのかを把握し、稼働させる作業に移る。そして次のステップとして、原子力圧力容器の中に水を注水する。2 号機の次に 1 号機をやる手はず。3・4 号機については別ルートで逆送電の準備をしておき、これも平行してやる。順番としては、1 号機、3・4 号機の順で、炉心への注水をする手はずにしている。
- 知事：復興については、ある程度進みつつあるが、引き続き全力をあげてやってもらいたい。今日の新聞などを見ても、経済面への影響がものすごくなりつつあるので、特に、インフラ関係についても積極的にやっていかなければならないと思っている。

当面の一番大きな仕事は、農産物の風評被害をどうやってくい止めるかということになってくる。次から次へと大きな新しい問題がでてきて大変だけれども、これについては水とか牛乳についても大丈夫だ。これも間もなく発表したいと思っている。それから、ほかの野菜についても大丈夫だけれども、タイミングをみて今日中に発表する。ホウレン草はなかなか難しい状況があると思っている。さっき教育長から出てきた話だけれども、これはミリベルトでやっているから、なかなかわかりにくい面がある。こちらはベクルで発表になる。ベクルとミリベルトと両方がわかりやすいものを作れるかどうか、少し工夫して欲しい。それから、後ろのページはこんなに細かく要らない。例えば、千ぐらいまで。何ミリベルトまで考えられるのか。400 ミリベルトが発電所の脇のところであったけど。

- 参事兼危機管理室長：人体に影響が出てくると言われているのが大体 150 ミリベルト以上と言われている。
- 知事：原子力発電所が何かあったとして、どのぐらいの放射線量になるか。最大で。
- 参事兼危機管理室長：その対応によるので、一概にはなかなか言えない。
- 知事：1万なんてあるのか。
- 参事兼危機管理室長：まずないとは思いますが。
- 知事：ないものまで書いてあるからややこしいので、500 まではまず大丈夫だともいわれているから、500 ぐらいまでこっちへ上に書いて、その下のほうを細かく書いて。それで、ベクルとミリベルトを換算して、両面に出しといてやるとわかりやすい。大きい紙でいいから。上のほうに高い方をだして、その下の方を細かく書いてやって、裏面をベクルで作るとかやって、現在の状況はどういうものかというのを書いておけばわかりやすいのかなと思う。あとは、数値がでて、これはこのぐらいですというのは発表していかざるを得ないけども。学校とか、市役所とか（に配布して）。これを市町村長に送ってあったから、農林水産物の話が出る前の段階では、市町村長がこれを基に関係者に話していると聞いていたので、そういう点で、これをもう少しわかりやすい形で、作って配布してはどうかかなと思っている。以上。
- 危機管理監：ほかになければ、本部会議を終了する。